

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	4070801297		
法人名	有限会社 さつき福寿サービス		
事業所名	グループホーム さつき		
所在地	福岡市東区奈多3-4-16 〒 811-0204 (電話) 092-605-5350		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年10月8日	評定確定日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 8 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	11 人	常勤 3 人	非常勤 8 人 常勤換算 7.75 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての～		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000～48,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有(100,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(9 月 20 日現在)

登録人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護 1	4 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまだ医院・雁の巣病院・福岡輝栄会
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家庭的な雰囲気の中で、小規模だからこそできる利用者本位の個別ケア支援を目指して5年前に開設された事業所である。年月が経過しグループホームを取り巻く環境や制度も変わってきたが、開設時に誓った「3つの誓い」を理念・方針として、「初志貫徹」に努めている。事業所の特徴として、できる事や好きな事に着眼した利用者の自立にむけての時間をかけた丁寧な支援がある。食事や外出等、利用者8人のホームだからこそできる、小回りの効いた支援が数々見受けられた。開設当初より目指してきた「自然な形で地域との交流」に加えて、本年度は利用者が雑巾を縫い、公民館や保育園に寄付する試みを始めた。また、開設時から継続して勤務している職員も多く、利用者はもちろん地域とも馴染みの関係が出来上がってきた。「継続は力なり」、この力が今後とも利用者の生活や地域とのかかわりに反映していく事を大いに期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果は、ミーティングで報告し、改善に向けての検討を行った。この過程においてケアプランの充実や、地域との交流として利用者が雑巾を縫い公民館や保育園に寄付する等の成果が見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価を受けるにあたり、管理者が全体の状況を把握し、職員に意見を求めながら、自己評価と今後の取組みについての考察を記入する等の取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 昨年、運営推進会議の定期開催が困難であった。現在は定期開催を休止している。今後ホームの運営に反映できる会議とするために、運営推進会議のあり方や議題、検討事項や委員の人選と依頼方法、開催日時等について再検討している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 面談時や家族会時などを利用して、意見や思いの表出に努めている。その際、職員と家族とのかかわりを通じて、意見や苦情を表出しやすい雰囲気づくりへ配慮している。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や、職員会議で検討した後に回答するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩時やホーム付近の清掃時の挨拶、食材および日用品の配達や買い物等による地域商店の利用、地域の夏祭りや保育園の運動会、クリスマス会などへの参加を通して地域とのかかわりがある。また、利用者手製の布ぞうりや雑巾を保育園(バザー用)や公民館に寄付するなど、地域の一員として交流の機会を確保するための取組みがある。

2 . 調 査 報 告 (詳 細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの「3つの誓い」の中に、地域交流をう たっている。地域の中で、高齢者がその人らしく暮ら していくことを支援する事を理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	事務所等に理念が掲示されている。また、入職時の オリエンテーションや会議時での確認、介護計画作 成の際の立ち返りと、計画への反映等、日々の業務 を通じて理念の実践に向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	散歩時やホーム付近の清掃時の挨拶、食材および 日用品の配達や買い物等による地域商店の利用、 地域の夏祭りや保育園の運動会、クリスマス会など への参加を通して地域とのかかわりがある。また、利 用者手製の布ぞうりや雑巾を保育園(バザー用)や 公民館に寄付するなど、地域の一員として交流の機 会を確保するための取り組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果は会議で報告し、改善に向け ての検討を行った。この過程においてケアプランの充実 や、地域との交流として利用者が雑巾を縫い公民館 や保育園に寄付する等の成果が見られた。今回の外 部評価受審にあたり、管理者が全体の状況を把握 し、職員に意見を求めながら、自己評価と今後の取 組みについての考察を記入する等の取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	昨年の運営推進会議の実施をふまえて、今後の運 営推進会議のあり方や出席を依頼する委員や開催 日時、議題、検討事項等について再検討している。		運営推進会議について再検討されています。貴事 業所の検討と取組みの結果として、運営推進会議 が机上の会議に終らず、事業所や利用者はもちろん、 家族、地域、関係者にとっても有益な情報交換 や話し合いの場として活用される機会となることを期 待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	行政に対して、その都度、運営や地域密着型サー ビスについての質問、介護保険改訂に関する質問等 を行っている。また、生活保護受給者の受入れに 関する連絡・相談や他事業者と共同作成したミニコミ 誌を送付するなど、地域の事業者と連携しての働き かけもある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要 な人にはそれらを活用できるよう支援し ている	日常生活自立支援事業や成年後見人制度の外部 研修会に参加している。管理者は機会をみて、職員 に説明を行い、利用者や家族には、契約時や日常の 面談から、必要な際に制度概要等についての説明を 行っている。また利用者・家族の権利擁護として他の 制度についても、随時、活用への支援を行っている。		
4 理念を实践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族訪問時の説明や電話連絡を行っている。定期 的には毎月ホーム行事等の案内をお知らせする「さ つきだより」の送付と、利用者ごとの心身の状況や健 康状態、介護計画に関する評価、日頃の暮らしぶり やエピソード等を詳細に記録した「生活状況月例報告 書」を送付し、報告を行うなどの取組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	面談時や家族会時などを利用して、意見や思いの 表出に努めている。その際、職員と家族とのかかわり を通じて、意見や苦情を表出しやすい雰囲気づくりへ 配慮している。意見や苦情については、内容に応じ て、その場での回答や、職員会議で検討した後に回 答するなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は単独なので異動もなく、開設時の職員のほとんどが継続して勤務しており、利用者や家族とも馴染みの関係を作っている。新しい職員が入職した際は、日勤から徐々になれて、夜勤の現地指導を数回行っている。利用者に対しても徐々に寄り添いながら、コミュニケーションを図れるように、先輩職員がフォローする等の取組みがある。		
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時には年齢・性別などの制限はなく、事業所の理念・方針への共感や人柄を重視している。また、職員が働きやすい環境を整備するために、子育て中の職員への支援や新人職員の意見の積極的な採用、各職員の得意分野を活かした支援等を実施している。また、プライベートの充実や資格取得の為に勤務の調整なども配慮している。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習がプログラムされた外部研修への参加と、事業所内で受講報告会等を行っている。法人の理念である「3つの誓い」の中には、高齢者・健常者・障がい者が共に楽しく暮せる社会を提案する旨を明記し、会議時の指導を通じ、日々の業務においても自己研鑽する旨の啓発を行っている。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は情報を掲示し、希望を募る場合と、職員の経験等に応じて適切に振り分ける場合など、参加の機会を確保し、質の向上に取り組んでいる。また、研修受講後は受講報告を行い、新しい知識や情報を共有する取組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じて知りあった、他の地域密着サービス事業所と賛同して情報交換や交流を目的として懇親会やミニコミ誌を作成している。今後の課題として職員間の交流を検討している。		現在、職員間の交流会等を検討されています。交流の機会を通じて、質の向上に向けての情報交換、職員個々の気づきやモチベーションをあげる機会として活用される取組みとなることを期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や、体験宿泊等を実施し、無理強いすることなく、徐々に馴染めるように配慮している。また、入居後は利用者のケースに応じて、入居以前からの家族との関係も含めて、精神的な安定が得られる様に検討し、職員・家族共に方針を共有して支援している。他の利用者との関係も、それぞれの個性を尊重し、自然と馴染んでいけるように見守りながら支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ共感し、相互の存在を支えあう関係を築いている	利用者から、家事のアドバイスを受けたり、昔話を通じての人生経験等から学ぶ姿勢がある。また、日常生活の中で利用者と職員が喜びを共感し、相互の存在を支えあう関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や家族の面会時等に家族の思いや希望の把握に努めている。また、日常のかかわりを通して利用者の動作や表情等から思いや意向をくみとり、ミーティングにて職員全体で協議・検討を行っている。把握した内容は、オリジナルの様式に記入し、職員間での情報の共有や介護計画に反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々のかかわりを通して、利用者の希望の把握に努め、家族の面会時の声かけなど通して、家族の思いや意向の把握に努めている。職員間のモニタリングや月1度のカフェイン時に他の職員からの情報も共有している。介護計画書は利用者の個別支援の内容や認知症専門医からの支持等が反映され、ポイントもわかりやすく工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティング時に本人の状況や様子、支援の方針等の情報交換や共有を職員全員で確認している。利用者の毎月の状況と評価については記録し、書面にて家族への報告と確認を行っている。6ヶ月毎及び状態変化の際は、利用者、家族の意向や希望の確認を行い、介護計画書の見直しや再作成を行うなどの取組みがある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	少人数の個別支援として、通院時の付き添い支援、家族との外出、外泊時にかかわるケア等、可能な限り柔軟に支援している。また、利用者や家族にかかる経済的負担の緩和についての相談や検討、制度活用等の提案等、丁寧かつ良心的な対応がみられた。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に医療・受診等について説明し、利用者・家族が入居後の主治医を選択している。原則的にかかりつけ医の受診は家族が対応している。協力医とは大変連携がとれており、定期的な往診に加えて、緊急時の対応も可能である。また、必要時の歯科往診や近隣の精神科専門医療機関と連携するなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約事項として、「入居対象者」と「退去していただく場合」についての項目を提示し、ホームとしての対応の限界について予め説明を行い、同意の署名・捺印をとっている。看取りについて事例はある。協力医の意見のもと、本人や家族の思いを尊重し、関係者全員で協議を行い、介護計画書にも反映させる支援体制がみられた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	管理者は、利用者のプライドや尊厳を損なうことの ない様に指導し、各職員は自覚を持ち、配慮しながら、 言葉かけや支援を実施している。また、個人情報 に関する記録等は事務所に適切に管理されている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに配慮し、日々の過 ごし方、食事のタイミングや食事のとり方、居室やリ ビングでの過ごし方、外出への対応など、その日その 時の利用者のペースを尊重した対応が見受けられ た。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	五感に働きかける要素として食事を重要な支援と考 えている。栄養士が栄養バランス等と、利用者一人ひと りの好みや、リクエストに応じながらメニューを作成し、3食全 てを事業所で調理している。食材の買出しや、調理の 準備、配膳等、職員の見守りのもと、利用者はできる ことを率先して行なっている。24品目摂取を目安とし ており、品数が多く多彩な食材が使われていた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	一番風呂や、毎日の入浴等、時間や頻度等も含め て、本人の希望に沿って柔軟に対応している。定期的 に入浴の機会を確保する為、週3回の入浴を勧め、 状況に応じてシャワー浴や清拭を行う等、細やかに 配慮しながら清潔の保持を支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	日常のかかわりの中から、利用者のできることに着 眼して、役割を考え個々のケアプランに反映させてい る。職員は利用者ごとの役割を尊重しながら生活を 活性化するように支援している。また、外出や行楽、 アルバムを観たり、歌を唄ったりしながら昔を懐かし む機会を設けるなど、利用者の生活歴や好きなこと を把握したうえでの支援もある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常生活での買物や散歩、ドライブ、毎月の行事や 外食など、積極的に戸外に外出する取組みがある。 また、利用者個々の希望や状況に合わせて、コン サート等の個別の外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠されている。敷地が広い駐車場内を散 歩したり、買い物に出かけるなど、利用者は自由に 出入りが可能で、その都度、職員が声かけや見守り、 一緒に外出するなどの支援を行っており、利用者の 安全と自由な暮らしを支える取組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年3回消防署の指導による避難訓練の実施があ る。日常的に家屋、敷地共に火の元や火災の要因に ついて注意を払うなどの取組みがある。また、非常災 害時の地域との協力については運営規程に定め、具 体的には近隣商店との付き合いを通じて地元の消防 団員に協力体制をお願いする等の取組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士が24品目摂取を目標に作成した献立を採用 し、カロリーや栄養バランス、かゆ食、キザミ等、利用 者の状況に応じて、適切な食事内容で提供している。 また、栄養優先にならない様に、味や盛り付け、利用 者の好みや食習慣にも対応できるように支援してい る。食事摂取量は毎回記録し水分摂取量は、状況に 応じてコントロールを促すなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	元料亭の日本家屋を改装しており、趣のある玄関、 苔や玉石で彩られた中庭と落ちついたたたずまいで ある。また、駐車スペースや敷地も広々としている。 1、2階とも、程良く採光され、リビングは利用者がゆっ くりとくつろいでいる光景が見られた。また、季節感を 取り入れた装飾や花が品よく飾られており、居心地の 良い雰囲気作りへの工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、ハット・クローゼットが備え付けてあり、ど の部屋も明るい造りとなっている。写真、テレビ、お位牌 など利用者にとって馴染みの物が持ち込まれ、居心 地良く過ごすための工夫がなされている。また、床は 衝撃吸収性のあるフローリングを使い、担当職員に よる定期的な清掃が行なわれるなど、安全かつ快適 に過ごしていただく為の工夫が見られた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号